

第5期計画の実績と評価

介護予防の普及啓発と実態把握

【事業の実績】

○第1号被保険者対象（65歳以上の高齢者）とした下記の介護予防講座を実施し、介護予防の重要性の周知に努めた。

- ・健康づくり課による介護予防、健康づくり、栄養、口腔、転倒予防等に関する講座（P 4～6）
- ・すっきりいきいき頭の健康教室（認知症予防教室）（P 12）
- ・外部講師を招いての講座

24年度「介護予防のための生活習慣」北海道大学大学院医学研究科 玉腰暁子氏

25年度「幸せな老後のために備えること」北海道医療大学看護福祉学科 大友芳恵氏

「認知症ケアとまちづくり」北海道医療大学 新川詔夫氏 石川秀也氏

- ・地域住民、各種団体等の依頼に応じて行う講座(出前講座)

	H24	H25
実施回数	5回	4回
延参加者数	151人	138人

○関係機関や民生委員等との連携を図り、早期に情報をいただくように周知し、二次予防事業対象者把握の実態調査時や訪問相談、窓口相談時に虚弱高齢者の早期発見・対応に努めた。

【事業の課題】

○介護サービス利用について、ぎりぎりになるまで相談しない認識が強く、実際にサービスを利用する段階では問題が大きくなっている場合があるため、早期相談を啓発する必要がある。

○認知症は家族が困らなければ受診につながらないケースが多く、また、家族や近隣が対応を苦慮しているケースの相談も増えており、早期診断の重要性を啓発する必要がある。

○地域体操教室は健康づくり課が、認知症予防のすっきりいきいき頭の教室は地域包括支援センターが担当し、ともに養成したサポーターに協力いただき地域の集会施設で開催しているが、効率的な方法、集会機会を地域の交流に生かす工夫について検討する必要がある。

介護予防事業（二次予防事業）

1. 二次予防事業対象者把握事業

【事業の実績】

○次のような機会を活用し、生活機能チェックリストによる二次予防事業対象者の実態把握を実施。

- ・介護予防事業（地域体操教室・すっきりいきいき頭の健康教室）、健康づくり事業（ヘルシーエクササイズ、湯ったりサロン）参加者、特定健診受診者。
- ・満75歳以上で介護サービスを利用していない在宅高齢者の調査訪問を行い、調査員が聞き取りで実施。
- ・本人や家族からの窓口や電話相談対応による把握
- ・関係機関からの情報（主治医、医療機関、民生委員・児童委員、ヘルスコンダクター、介護事業者等）
- ・要介護認定における非該当者の情報

	H23	H24	H25
生活機能チェックリスト実施数	1,337人	1,461人	1427人
二次予防事業対象者数	402人	379人	432人

○二次予防事業対象者に対し、通所型介護予防事業（温泉教室）、地域体操教室の紹介、口腔機能該当者に歯科健診・相談の紹介、低栄養該当者に栄養相談や調理教室の紹介を実施。

○二次予防事業対象者のデータは、講座開催地の選定で活用している。

【事業の課題】

○実際に支援が必要な二次予防事業対象者は調査訪問により把握され、25年度からは独居同居に関わらず満75歳以上を対象に調査を行っているが、全地区を調査するには今の体制では28年度くらいまで時間を要する。

○調査結果は今後の相談支援や各種サービスの利用に役立てているが、今後、生活機能基本チェックリストの結果を個別対応のみならず、地域の傾向をつかみ、課題を見つけ、市民への周知や介護予防講座の企画に活用する。

2. 通所型介護予防事業

【事業の概要】

温泉教室

- ・ 目 的：閉じこもりやうつ予防等のため、週1回の外出機会をつくり、通所による運動機能向上・栄養改善・口腔機能の向上、人との交流を図る。
- ・ 対象者：65歳以上の要介護認定を受けていない方で、二次予防事業対象となる方。
- ・ 内 容：滝川ふれ愛の里で入浴・血圧測定・健康チェック・百歳体操・ミニ講座（栄養・歯科・転倒防止等）、食事も含めた季節の行事を実施。送迎あり。
週1回、13：15～15：45 料金1回600円

【事業の実績】

○温泉教室の参加者数

	H23	H24	H25
実施回数	105回	105回	105回
延参加者数	1,313人 (実人員69人)	1,526人 (実人員67人)	1,645人 (実人員72人)

○ミニ講座（栄養）

	H23	H24	H25
実施回数	6回	6回	6回
延参加者数	83人	82人	99人

○ミニ講座（歯科）

	H23	H24	H25
実施回数	6回	6回	6回
延参加者数	78人	87人	94人

【事業の課題】

○継続参加者ほとんどで、介護認定へ移行する人は毎年約1割程度、要支援者と差があまりない参加者もあり、介護予防の習慣化、要介護認定への移行防止に役立っている。

○制度改正により要支援の利用者も現れるため、利用者増に対応できるかが課題である。

3. 訪問型介護予防事業

【事業の実績】

○25年度に北海道大学大学院の調査研究事業を活用し、認知機能改善を目的とした予防型家庭訪問事業を実施。

- ・対象者：滝川市在住で単身または夫婦世帯の二次予防事業対象者
- ・内 容：年4回、1回30分程度の家庭訪問を実施。在宅高齢者生活機能向上ツール（F I T）を用いて、日々の生活を振り返り、楽しいことや大切だと思うことに気づきながら、高齢者自身が生活目標を再設定するという一連の過程を通して、認知機能改善の継続的・中長期的な効果を明確にし、高齢者個々の生活特性に合わせた予防を図る。

○二次予防事業対象者67人に対し訪問開始。看護師・保健師が年4回訪問。途中、体調悪化等で終了となった場合もあり、最終まで訪問した人は46人。

	H25	
	対象者数	訪問延数
訪問実施者	67人	215人

【事業の課題】

○今後北海道大学大学院の分析結果も踏まえ評価を行う。継続実施については、実施体制が課題となる。

4. 介護予防二次予防対象者施策評価事業

【事業の概要】

○二次予防事業対象者に対する介護予防事業について、事業評価の評価指標に基づき評価を実施。

- ・プロセス評価～対象者を適切に把握するための複数の把握方法の確保の状況、事業の実施・評価等への住民参画状況、事業の実施状況の検証と次年度以降の実施計画の見直しなど
- ・アウトプット指標～介護予防ケアマネジメント実施件数、事業の実施回数・参加者数など
- ・アウトカム指標～新規認定申請者数、新規認定者数など

【事業の実績】

- ・プロセス評価～対象者の複数の把握方法の確保、事業の実施状況の把握を行い、包括支援センター運営協議会等へ取組状況を報告し、意見等は次年度以降の取組の役立てている。
- ・アウトプット評価～事業実施は実施率100%、事業参加率は24年度で58.1%
- ・アウトカム指標～事業実施効果が二次予防に十分繋がっているかは深く分析できていないが、通所型介護予防事業での健康観、基本チェックリストの比較では、前期後期とも改善傾向が見られる。新規認定者数は年々微増、介護保険事業計画での推定値とほぼ同じく推移している。

介護予防事業（一次予防事業） 介護予防普及啓発事業

1. 地域体操教室

【事業の概要】

○介護予防の普及を図るため、「いきいき百歳体操サポーター養成講座」を修了したサポーター（ボランティア）が町内会などと協力し、「いきいき百歳体操・かみかみ百歳体操」を運営実施

○介護認定を受けている方も利用できる。介護認定を受けている参加者は、1教室5%程度。

○会場使用料程度の参加費を徴収している。

【事業の実績】

	H23	H24	H25	H26
開催地区数	12地区	15地区	15地区	18地区
延実施回数	505回	660回	700回	
延参加者数	8,060人	10,567人	10,941人	

○民生委員や町内会連合会などの会合に参加し積極的にPRに努め、第5期の3年間で6ヶ所増。
平成26年は7月末で、新規3か所増。グループホームなど介護事業所3か所でも開催している。

【事業の課題】

- 1小学校区に3か所を目的としているが、歩いて通える適当な会場がない場合もあり、今後も町内会等と課題を整理しながら、拡大に努める。
- H26.10月にアンケートを行い、介護予防の効果を確認する。

2. ゆったりセミナー**【事業の概要】**

○閉じこもり予防と入浴等で健康を維持するため、65歳以上の市民を対象に、ふれ愛の里において、講師を招へいし健康セミナーを実施。湯ったりサロンの機会を活用し年3～5回実施。料金は無料。ふれ愛の里バスを江部乙・東滝川等市内11カ所を1日1往復巡回し送迎。

例）平成26年度 湯ったりセミナー（温泉健康セミナーに改称）の内容

5月	下肢を強くしよう	溪仁会円山クリニック 笠川祐輔氏
6月	湯ったりウォーキング	保健センター 作業療法士・保健師
7月	運動の温泉効果と運動～座ってできる有酸素運動	健康保養ネットワーク 福岡永告子氏
9月	体幹を強くしよう	滝川スポーツクラブサンテ

【事業の実績】

○ゆったりセミナー開催状況

	H23	H24	H25	H26
開催回数	3回	4回	5回	4回
延参加者数	73人	78人	75人	

【事業の課題】

○高齢者の外出機会として有効な取り組みであり、今後も継続する。

3. 栄養改善に関する事業（栄養相談・料理教室）**【事業の概要】**

○低栄養状態になるおそれのある一次予防事業対象者に、低栄養の予防、認知症の予防を図るため、個別栄養相談や料理教室を実施。参加費1人500円

【事業の実績】

	H23	H24	H25	H26
開催回数	12回	22回	24回	24回
延参加者数	235人	233人	298人	

【事業の課題】

- 低栄養状態になりやすい一人暮らしの男性などのハイリスク者の参加が少ない。
- 調理場の維持管理や備品状況が十分でなく、調理実習ができる施設が限られている。
- 食生活改善推進員の主体的な取り組みの促進

4. ヘルシーエクササイズ

【事業の概要】

- 運動習慣のない人を対象に、簡単手軽なストレッチ・筋力づくり体操をPR・普及を目的に、毎週金曜日13:30~14:15、保健センターで実施。参加費300円。

【事業の実績】

	H23	H24	H25
開催回数	46回	47回	46回
延参加者数	2,786人	2,328人	2,322人

【事業の課題】

- 参加者はほぼ毎週参加し、固定化しており、運動習慣が定着化している。また、参加者の平均年齢は年々上昇しているが、新規参加者は少しずつ増加しており、生活習慣の改善のため周知していく。

5. 介護予防講座

【事業の概要】

- 介護予防に関する知識や情報を提供するため、市主催、地域の依頼による出前方式で、健康づくり、栄養、口腔、転倒予防等をテーマとする介護予防講座を開催。

【事業の実績】

- 介護予防講座開催状況

	H23	H24	H25
開催回数	8回	8回	16回
延参加者数	453人	423人	639人

【事業の課題】

- 保健センター・総合福祉センター以外にいきいき百歳体操を実施している地区で開催し、新たな参加者の発掘につながったことから、地域で歩いて行ける場を利用して、多くの市民が参加しやすい環境で、引き続き各地域での開催を進めていく。
- 膝痛予防講座の要望が多いほか、保健センター職員による出前講座のニーズが増えている。
- 北海道医療大学などと連携し内容の充実を図る。

6. 老人クラブ巡回口腔ケア教室

【事業の概要】

- 目的：食生活上欠かせない口腔機能を低下させないために、感染症予防を含めた口腔ケアの意義や実践を普及しQOL(生活の質)の維持向上を図る。
- 内容：年1回各老人クラブを訪問し、口腔内観察、健康講話、口腔ケアの実践のほか、必要に応じ口腔ケアグッズの紹介を行う。

【事業の実績】

	H23	H24	H25
開催回数	28回	29回	25回
延参加者数	447人	400人	345人

【事業の課題】

○年々自分の歯が残っている者が増加する傾向がみられるが、口腔状態が悪化し自覚症状が出るまで後回しにされることが多い。引き続き、歯と口の健康についての予防啓発を行い、適切な口腔ケアを習慣づけ、歯周病・根面むし歯の予防を図る。

介護予防事業（一次予防事業） 地域介護予防活動支援事業

1. 生きがいと健康づくり事業**【事業の概要】**

○高齢者の生きがい活動と社会参加活動の促進のため、老人クラブ単位で道路や公園、公共施設等の花壇づくりや草刈り、清掃等による環境整備を行う活動を支援。
滝川市で花苗・肥料を購入し、参加する老人クラブへ配布し、作業報酬を支払っている。

【事業の実績】

	H23	H24	H25	H26
クラブ数	20クラブ	20クラブ	19クラブ	17クラブ

【事業の課題】

・参加クラブ数は減少しているが、花壇づくり等を通して、クラブ会員内の交流や滝川市の環境美化に携わっているという充実感が得られるなどのクラブからの意見もあり、参加クラブの拡大に向けて、町内会や民生委員の連携・協力を得て事業を推進していく。

2. いきいき百歳体操サポーター養成講座開催状況**【事業の概要】**

○地域体操教室の自主的運営のため、介護予防知識の講座や体操の実技などの研修を実施し、体操サポーターを養成しているほか、サポーターのレベルアップを図るためスキルアップ研修を実施
○市内介護事業所職員を対象に、関係機関での運動メニューの拡大と、百歳体操参加者が介護保険利用も運動を継続できるように、関係機関からの要望を受け隔年で研修を実施。

【事業の実績】

○いきいき百歳体操サポーター養成講座

	H23	H24	H25
講座開催回数	3回	2回	3回
参加者実数	44人	60人	81人

○平成25年度末までに17回養成講座を実施し、延172名が修了。そのうち75%（122名）がボランティア活動への参加経験がある。現在約100人が、ボランティア活動に参加。

○サポータースキルアップ研修

	H24	H25
講座開催回数	3回	3回
参加者実数	63人	59人

○いきいき百歳体操介護事業所職員対象研修

	H24	H25
講座開催回数	0回	3回
参加者実数	0人	45人

【事業の課題】

○サポーター講座を開始し8年目を迎えたが、介護予防のための最重要な取り組みであり、今後も継続が必要。

3. 自立支援短期宿泊事業

【事業の概要】

○65歳以上の要支援、要介護認定を受けていない一次予防・二次予防事業対象者で、一時的に施設入所が必要な方を対象に、短期間施設に入所し、生活の改善や体調の調整を行う。入所は最大7日間、利用料は1日につき2,500円。

○事業は、滝川市社会福祉事業団へ委託（特別養護老人ホーム緑寿園）

【事業の実績】

	H23	H24	H25
利用者数	0人	2人	0人
利用日数	0日	4日	0日

【事業の課題】

○家族の負担軽減や緊急時における一時的な施設入所の対応が必要な方にサービスが提供できるよう、二次予防事業対象者や民生委員、町内会などへの周知に努める。

4. 自立支援指導員派遣事業

【事業の概要】

○65歳以上の要支援、要介護認定を受けていない一次予防・二次予防事業対象者で、支援・指導が必要な方を対象に、生活管理指導員（ホームヘルパー）を派遣し、日常生活に必要な支援・指導を週2時間、原則1カ月間行う。利用料は1時間当たり360円。

【事業の実績】

	H23	H24	H25
利用者数	4人	0人	0人
利用時間	10時間	0時間	0時間

【事業の課題】

○退院後の生活支援、要介護認定の判定待ち期間の生活支援など一時的な疾患や体調不良等で家事援助が必要になった場合など、必要な方にサービスが提供できるよう、民生委員、町内会、介護事業所等へ制度の周知徹底を行う。

介護予防事業（一次予防事業） 介護予防一次予防事業対象者施策評価事業

【事業の概要】

○一次予防事業対象者に対する介護予防事業について、事業評価の評価指標に基づき評価を実施。

・プロセス評価

介護予防の一般的知識、介護予防事業の実施の普及啓発の状況、介護予防活動を行っている組織などの把握状況、ボランティア育成などの研修会の開催状況など

・アウトプット指標・アウトカム指標

介護予防に関する講演会や相談会等の開催状況、ボランティア育成の研修会の開催状況、地域活動組織への支援状況

【事業の実績】

○プロセス評価

介護予防事業等の普及啓発、ボランティア育成や協働、地域への担当職員派遣は、健康づくり課と地域包括支援センターが連携し実施

○アウトプット指標・アウトカム指標

健康づくり課・地域包括支援センター合わせて、年間約100回、延人数約1000人に対して介護予防に関する講演会・相談会を開催。ボランティア・地域活動組織への支援は、地域体操教室とサポーター育成・支援を実施し、毎年2～3か所体操教室の開催箇所は増加

健康づくり事業の推進

1. 保健センターにおける健康事業の推進

【事業の実績】

○市民が主体的に健康づくりに取り組み、高齢者も健康で暮らせるように平成25年4月に「第二次健康滝川21アクションプラン」を策定し、本計画と連携して健康教育、健康相談、健康診査、講演会等により健康増進と疾病予防に取り組んだ。

2. 滝川市障がい者歯科保健医療サービス推進事業

【事業の概要】

○心身に障がいがあり、歯科治療や歯科指導を受ける事が困難な方に歯科検診や口腔ケアを実施。

・実態調査～家族・ケアマネ等からの依頼で随時実施。歯科衛生士が口腔状況、生活状況などを把握

・口腔衛生指導～調査後の状況で、実態に応じて随時実施。歯科衛生士が口腔ケアを実施

・歯科検診～必要者に対して実施（滝川市歯科医会に依頼）

【事業の実績】

○障がい者歯科保健医療サービス推進事業

	H23	H24	H25
訪問実態調査	37人	42人	26人
訪問口腔衛生指導	208人	165人	186人
訪問歯科検診	5人	0人	0人

【事業の課題】

- 今後、自分の歯が沢山残っている方が増えると予測され、いかに残っている歯や口腔機能を維持増進させ、口腔機能の廃用を防ぎＱＯＬの向上を図るかが課題である。

3. 健康教育

【事業の概要・実績】

- 生活習慣病や介護予防、健康づくりの知識の啓発を図り、壮年期からの健康保持、増進を目的に各種健康教育を実施

- 健康づくりウォーキング事業

対象者：一般市民

事業内容：たきかわウォーキングコースと一緒に歩き運動習慣の定着を図る。

	H23	H24	H25
ウォーキングイベント開催回数	2回	2回	2回
ウォーキングイベント延参加者数	60人	44人	36人

- ノルディックウォーキング教室

対象者：一般市民

事業内容：冬の健康づくりの一環として、雪の上でも安全に取り組みめる運動の一つとして実施

	H24	H25
ノルディックウォーキングイベント開催回数	2回	1回
ノルディックウォーキングイベント延参加者数	22人	15人

- メタボリック予防教室

対象者：一般市民

事業内容：特定健診の事後教室として開催

	H23	H24	H25
開催回数	2回	2回	—
延参加者数	44人	23人	—

- その他依頼による健康教室

対象者：一般市民

事業内容：企業や地域のグループから健康に関する講話の依頼を受けて実施

	H23	H24	H25
開催回数	8回	9回	9回
延参加者数	268人	334人	425人

【事業の課題】

- 特に青壮年期の生活習慣の改善が将来の介護予防へとつながっていくため、企業への健康教育を増やし、青壮年期の健康意識の普及啓発を行っていく。

4. 健康相談

【事業の概要・実績】

- 市民健康相談コーナー（血圧・体脂肪・肺活量測定、エアロバイク）

対象：一般市民

事業内容：測定機器やエアロバイクを開放し、生活習慣・運動習慣改善のための行動をサポートする。

	H23	H24	H25
開催日数	243回	248回	244回
延利用者数	1,504人	1,208人	1,294人

○健診事後相談（特定保健指導は除く）

対象：一般市民

事業内容：国民健康保険以外の方への相談や、特定保健指導にならないものの早期に保健指導の必要がある人に対して相談や指導を行う。

	H23	H24	H25
相談人数	28人	22人	42人

○ヘルシーエクササイズ

対象：一般市民

事業内容：毎週同じ時間に簡単・手軽にできる運動を行うことで、運動習慣の定着化を図り、健康増進や閉じこもり予防、寝たきり予防へと繋げていく。

	H23	H24	H25
開催回数	46回	47回	46回
延参加者数(64歳以下)	182人	207人	168人
延参加者数(65歳以上)	2,604人	2,121人	2,154人

○骨粗しょう症検診事後指導

対象：骨粗しょう症検診受診者のうち要指導、要精密検査その他必要と判断した者

事業内容：骨粗しょう症の予防と重症化予防のため、食事・運動などの生活習慣の改善と予防への動機づけを行う。

	H23	H24	H25
開催回数	2回	1回	1回
実施人数	44人	23人	26人

【事業の課題】

- ・市民健康相談コーナーやヘルシーエクササイズについては、参加者が固定化し運動習慣が定着化している。ヘルシーエクササイズでは参加者の平均年齢は年々上昇しているが、新規の参加者は少しずつ増加している。また、健診事後相談は、市民の健康意識の向上と生活習慣に関する行動変容の促進を促す場となっており、今後も生活習慣の改善のための取り組みとして周知していく。
- ・骨粗しょう症は、骨折のリスクが高く、その後の介護にも影響する疾患でもあるため、重症化予防の観点から、骨粗しょう症検診及び事後指導の新規受診者の拡大を図る。

5. 健康診査

【事業の概要・実績】

○特定健康診査

- ・「高齢者の医療の確保に関する法律」に基づいてメタボリックシンドロームに着目した健診を行い、生活習慣病の有病者・予備軍の減少を図る。対象は40～74歳の滝川市国保加入者

・特定健診受診率

	H23	H24
特定健診受診率	19.9%	21.4%
特定保健指導実施率	16.2%	18.7%

※H25については、26年10月確定

- ・受診率向上に向けて、対象者全員への受診勧奨案内、休日健診の実施、健診費用の無料化などを実施したが、目標値には達していない。
- ・特定健診受診者のうち、生活習慣病の発症リスクが高く、生活習慣の改善による生活習慣病の予防効果が多く期待できる方に対して、個別指導を中心とし、ポピュレーションアプローチ（調理実習や運動）との組み合わせにより特定保健指導を実施。

○骨粗しょう症検診

	H23	H24	H25
実施回数	2回	2回	2回
実施人数	44人	64人	69人

【事業の課題】

- 健診受診率の向上を図るとともに、市民の健康意識を高め、健診受診の必要性を実感できるように働きかけていくことが必要。

6. 訪問指導

【事業の概要】

- 療養上の保健指導が必要な高齢者やその家族への訪問指導
- 国保重複多受診者等の訪問指導
- 特定健康診断事後訪問

【事業の実績】

○訪問指導状況

	H23			H24			H25		
	重複 受診	健康 事後	レセ プト	重複 受診	健康 事後	レセ プト	重複 受診	健康 事後	レセ プト
20～39歳	1件	4件	0件	1件	3件	0件	1件	3件	0件
40～49歳	1件	1件	0件	0件	0件	0件	1件	1件	0件
50～59歳	2件	5件	0件	0件	7件	0件	2件	2件	0件
60～69歳	2件	25件	0件	6件	17件	0件	11件	15件	0件
70～74歳	16件	0件	0件	8件	7件	0件	20件	13件	0件
計	22件	35件	0件	15件	34件	0件	35件	34件	0件

- 療養上の保健指導が必要と認められる方及び家族への訪問指導は、対象者は障がい者が主となっている。

- 国保重複多受診者訪問は、実態として同じ診療科でも専門によって病院を変えて受診するなど、各々の事情で病院を選んでいる方が多い。

【事業の課題】

- 国保重複多受診者訪問を実施し、受診行動の問題点の把握、適正な医療を呼び掛けを継続する。

○特定保健指導から除外されるメタボ非該当者に対し、生活習慣を見直す機会として訪問し、生活習慣病予防と、将来的な重症化予防につなげていく。

○特定保健指導対象者に対しては、未利用者への利用勧奨や生活習慣改善に向けた支援に効果的に取り組む。

認知症予防と早期発見

1. 認知症予防の普及啓発事業

【事業の概要・実績】

○認知症介護予防講座の開催状況

- ・認知症介護予防講座は、認知症サポーター養成講座と内容が重複することもあるため、出前講座等依頼に応じて実施している。

	H23	H24	H25
開催回数	7回	5回	4回
参加者数	259人	151人	138人

○認知症の相談・訪問等個別対応状況

	H23	H24	H25
相談件数 実（延）	7（9）人	54（67）人	59（73）人
うち訪問件数 実（延）	1（1）人	22（28）人	29（39）人

【事業の課題】

○認知症介護予防講座により普及啓発に取り組む一方で、認知症に関する相談が増加しており、訪問などで個別に対応しているが、認知機能低下の早期発見方法とその普及啓発が課題。

2. 認知症予防事業 すっきりいきいき頭の健康教室（認知症予防教室）

【取り組みや事業の概要】

○概ね65歳以上の一次予防事業対象者及び二次予防事業対象者を対象に、認知症を予防し頭の健康を維持する高齢者向け学習教室として開催。「くもん脳の健康教室」教材を活用し、簡単な「読み書き」「計算」問題などを行う。

○毎週1回、曜日を固定して、1サイクル6ヶ月間開講。学習は1回15分から20分程度、教室のない日も自宅で一定時間の学習を行う。教材費毎月1000円。

○ボランティアの学習サポーターを養成し、教室運営を行う。

○24年度東滝川地区、25年度西地区、26年度東地区とエリア別に開催。

【事業の実績】

	H24	H25
開催回数	20回	21回
実施人数（実）	19人	23人
実施人数（延）	341人	406人
学習サポーター人数（実）	5人	7人
学習サポーター人数（延）	89人	122人

【事業の課題】

- 教室開催エリアの順次拡大
- 教室卒業後、参加者と学習サポーターにより継続して取り組んでいたが、約2年間で教材が終了することから、日常生活の中で参加者が継続して取り組める手法の検討が必要

認知症になっても地域で安心して暮らせる取組み

1. 認知症サポーター養成事業

【事業の概要】

- 認知症になっても安心して暮らせるまちを目指すため、認知症を正しく理解し、認知症の人や家族を温かく見守る応援者である「認知症サポーター」を「認知症サポーター養成講座」により養成する。地域の団体やサークル、企業、学校などが対象。
- 「認知症サポーター養成講座」の講師は、北海道の研修を修了した「認知症キャラバンメイト」が務め、60～90分の講義で、滝川市から講師の「キャラバンメイト」を希望する日時・場所へ無料で紹介する。

【事業の実績】

- 認知症サポーター養成講座実施状況

	H23	H24	H25
開催回数	3回	6回	2回
養成人員	75人	97人	54人

- 平成26年7月現在、認知症サポーター数は1,210人

【事業の課題】

- これまで1,210名のサポーターを養成しているが、キャラバンメイト・認知症サポーター人口割合を全国・全道と比較すると全国・全道3.4%、滝川2.9%であり、講師のキャラバンメイトも20名と少ない現状。
- 新しく講座を受けたい団体やサークルなどが減少し、開催回数が減少していると考えられるが、各事業所に対し、キャラバンメイト講習の受講をアプローチし、キャラバンメイトを増やすとともに、講座を地域ごとに開催するなど講座回数を拡大し、認知症についての普及啓発に努める。また、小中学生に対してもサポーター講座の受講に向けて引き続きPRしていく。

2. 滝川市徘徊高齢者等SOSネットワーク事業

【事業の概要】

- 認知症高齢者の徘徊による事故を防止し、早期発見に向けて迅速な対応ができるシステムを構築するため、関係機関と連携し、ネットワーク体制を構築している。

【事業の実績】

- 搜索件数

	H23	H24	H25
搜索依頼件数	7件	7件	2件

(H25年度末SOSネットワーク事業登録者数 67人)

○関係機関や地域の方のご協力もあり、見守り体制のネットワークが構築されつつあり、捜索に入る前にすぐ見つかるケースも増え、適切に早急に対応できるようになっていると考えられる。

【事業の課題】

- 現在の所行方不明者は全員発見されており、早期に探索体制ができているが、今後認知症高齢者数の増加が見込まれ、在宅での生活を安心して行えるよう、SOSネットワーク事前登録者を増やし、適切に対応することが望まれる。
- ケアマネージャーがついていない場合、家族の判断となるため、登録が遅くなったり、登録を拒否される場合もあり、必要性を認識していただくことが重要。

地域包括支援センターによる支援

1. 介護予防ケアマネジメント

【取り組みや事業の概要】

- 介護予防ケアマネジメント事業とは、要支援状態にあってもその悪化をできる限り防ぎ、できる限り自立した生活を営めるようサービス調整を行う。
- 要支援認定を受けた方を訪問し、アセスメント（課題分析）を行い、介護予防ケアプランを作成。サービス担当者会議を開催し、定期的なモニタリングを行い評価し、再アセスメントに基づき新しくケアプランを作成し、それを継続する。

【事業の実績】

○予防ケアプラン（要支援1・2）作成件数

	H21	H22	H23	H24	H25
包括支援センター作成	3,651件	3,924件	3,853件	4,028件	3,937件
委託作成	615件	665件	697件	578件	435件
合計	4,266件	4,589件	4,550件	4,606件	4,372件

○関連機関との連絡調整が増えてきている中で、居宅介護支援事業所への委託件数が減少している。居宅介護支援事業所の介護支援専門員が不足し、担当する要介護が定員に達しているため、委託で要支援を受け持てない状況。

【事業の課題】

- 要支援者の自立支援とともに、要介護者を増やさないように、要支援認定者の悪化防止と介護予防に努める。

2. 総合相談・支援

【事業の概要】

- 介護保険サービス、地域における適切な保健・医療・福祉サービス、機関または制度利用の総合的な案内や相談の実施
- 民生委員・児童委員や町内会など地域関係者とネットワークを生かし、個別訪問による高齢者実態調査の実施

【事業の実績】

	H 2 3	H 2 4	H 2 5
相談件数	748件	1,982件	1,366件
実態調査件数	1,504件	1,715件	1,101件
合計	2,252件	3,697件	2,467件

H24年度より、相談件数と実態調査件数の重複がある。

【事業の課題】

- ご家族や地域の方からのご相談が増加し、内容も認知症や虐待、介護保険につながらないケースや他機関と連携調整が必要なケースなど多岐にわたり、1件にかかる支援時間が伸びてきている。今後も相談件数の増加が見込まれ、緊急時対応含め、体制の充実が必要。

3. 権利擁護**【事業の概要】**

- 成年後見制度に関する情報提供や研修会の実施。身寄りがいない等の場合の市長による申し立て支援。
- 高齢者虐待の防止やその早期発見、施設における身体拘束・虐待等の廃止に向けた取り組みの徹底。（詳細はP 1 6）

【事業の実績】

- 成年後見市長申し立て・成年後見制度研修会

	H 2 4	H 2 5
申し立て件数	3件	3件
市民対象研修会	0回	1回 69人

- 平成26年度「市民後見人養成講座」開催
- ・25歳以上を対象に、滝川市、新十津川町、妹背牛町との共催事業で実施
 - ・8月8日説明会、9～11月に7回講座を開催
- ※家庭裁判所が選任するにふさわしい方を養成するために実施するもの

【事業の課題】

- 身寄りのない方や認知症の方が増加し、今後成年後見制度を利用者の増加が見込まれる。市民後見人養成後のフォローアップを含め、社会福祉協議会との連携を図り、適切に対応していく必要がある。

4. 包括的・継続的ケアマネジメント支援**【取り組みや事業の概要】**

- 居宅介護支援事業所の介護支援専門員が包括的・継続的ケアマネジメントを実践することができるように、地域包括支援センターにおいて、包括的・継続的ケアマネジメントの実践が可能な環境整備と介護支援専門員へのサポートを行う。
- ・介護支援専門員からの相談支援（随時）
 - ・事業所ネットワーク会議（多職種連携会議）の開催（2か月に1回）
 - ・研修会の開催（年2回）

【事業の実績】

- 年間6回市内の医療介護福祉事業所の介護支援専門員等相談員による会議を開催。平成26年度からは医療連携の必要性から、入院病棟のある医療機関の相談員や滝川保健所も参加。
- 年間2回認知症の知見、家族支援や感染症予防等をテーマに研修会を実施。

【事業の課題】

- 更なる連携・協働の体制整備が必要であり、今後は介護保険サービスだけではなく、民間のサービスや地域の方も含めて、地域ケア会議につなげていく。
- 市外の医療機関との退院調整が課題

地域支えあい・地域見守り活動の強化

1. 滝川市高齢者虐待をしません・させませんネットワークの充実

【取り組みや事業の概要】

- 平成18年4月に「高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律」が施行され、平成20年3月に高齢者虐待に対して迅速かつ適正な解決を図るとともに、虐待が発生しない地域づくりを目指して、関係機関17団体により「滝川市高齢者虐待をしません・させませんネットワーク」を設立。
- 平成23年法律第79号「障害者の虐待防止、障害者の養護者に対する支援等に関する法律」が制定され、高齢者虐待防止ネットワークと一体化し、平成25年10月に「滝川市高齢者・障がい者虐待防止ネットワーク」を再構築。
- 2年に1回、平成23年度・25年度に会議を行い、虐待事例報告や意見交換や高齢者虐待防止の理解、啓発のための研修会を実施。

【事業の実績】

- 虐待相談件数

	H24	H25
虐待相談件数	3件	6件

【事業の課題】

- 高齢者の虐待防止、早期発見につながるようネットワーク会議の開催だけではなく、近所や地域住民への周知徹底、高齢者見守り安心ネットワークとの連携強化を図る必要がある。

2. 高齢者見守り安心ネットワーク事業の充実

【取り組みや事業の概要】

- 既存の見守りサービスと合わせ、日常生活や業務の中で高齢者の異変に気がついたときに、地域包括支援センターへ連絡・通報する、重層的な見守り体制を構築するために、平成23年11月に「滝川市高齢者見守り安心ネットワーク」を発足。
- 34の協力企業（北海道電力、滝川ガス、水道企業団、スーパー、銀行、新聞店、タクシー会社、宅配業者、エフエムなかそらち等）、2つの協力機関（滝川警察署と滝川地区広域消防事務組合）、5つの協力団体（社会福祉協議会、民生委員児童委員連合協議会、町内会連合会連絡協議会、介護サービス事業者連絡協議会、老人クラブ連合会）の計41企業団体の協力をいただいているが、協力企業団体拡大のため、宅配業者や便利業者、シルバー人材センター等に働きかけている。

○平成24年度に見守り安心ネットワーク会議を実施。平成26年度は協力企業団体を拡大して開催予定。会議や講演会のほか、見守り安心ネットワーク手引きを作成し、会議に参加できない企業団体に対し、見守りの必要性や意義、活動のポイント、異変を感じた時や拒否している場合などの対応をわかりやすく周知している。

【事業の実績】

○見守り安心ネットワーク通報件数

	H24	H25
通報件数	137件	101件

平成25年度から、ふれあい電話からの依頼はボランティアセンターから直接民生委員に確認していただくことになり、件数が減少。（平成24年度34件）

【事業の課題】

○実態調査など通じ民生委員との交流が深まり、民生委員から多く情報が寄せられ、各種サービスなどに繋がっている一方で、企業や商店からの通報件数が少なく、周知不足が考えられる。ネットワーク協力企業団体の拡充を図り、さらに通報拡大に向けて対策が必要。

3. 高齢者見守り支援センター

【事業の概要】

○65歳以上の高齢者のみ世帯を対象に、月曜日から土曜日まで1日1回の電話と定期訪問による安否確認とともに、必要に応じて訪問による生活状況の確認を行い、利用者に異常が認められる場合は、関係機関（市、居宅介護支援事業所、訪問介護事業所等）への通報・連絡を行う。利用料は1か月につき500円。

○平成25年度から緊急通報サービスが利用できない方などを対象に、通信端末を利用した見守り事業を実施。

○滝川市社会福祉協議会へ委託

【事業の実績】

○電話による安否確認

	H24	H25
延利用者数	44人	56人
延実施回数	439回	451回

○通信機器による安否確認

	H24	H25
延利用者数	—	53人
延実施回数	—	3,197回

【事業の課題】

○留守時における連絡など利用時の煩わしさが課題となっている。また、人と接することが苦手な方、孤立している方などサービスが必要な方の掘り起しとともに、より良い見守り支援の方法を探りつつ、町内会・民生委員等とも連携のもと、地域の見守りのあり方について検討が必要。

4. 地域福祉活動推進支援事業の推進

【事業の概要】

- 支援が必要な高齢者等を地域で支えるために、自主的・積極的な地域福祉活動に取り組む市民団体やグループに対し、10万円を限度として事業費の1/2を滝川市社会福祉協議会を通じて助成している。安否確認、孤独感の解消、生きがい・健康づくり等地域における高齢者に対する各種団体の特色ある支援事業が行われている。

【事業の実績】

- 社会福祉協議会の助成状況

	H23	H24	H25
助成件数	2件	1件	2件
助成金額	17,500円	30,000円	135,000円

※助成内容～コミュニティ除雪実施町内会など

【事業の課題】

- 市の「未来へつなぐ市民力推進事業補助金」の利用、自主財源1/2が必要ということもあり申請件数が減少している。

5. 地域での見守り活動の充実

- ①ふれあい電話事業の推進

【事業の概要】

- 75歳以上の単身高齢者を対象に、平成6年度から滝川市社会福祉協議会がボランティア団体及び個人ボランティアの協力を得て、毎週月曜日から金曜日に安否確認や日常の生活相談等のため、ふれあい電話サービスを実施。

【事業の実績】

- ふれあい電話

	H23	H24	H25
利用実人数	416人	427人	420人

【事業の課題】

- 2週間に1回程度の電話のため、安否確認というよりは、ふれあいや生活相談のための事業となっている。

- ②ヘルスコンダクターの会の活動支援

【事業の概要・実績】

- 平成7年度に「ヘルスコンダクター養成講座」を修了した受講者が「ヘルスコンダクターの会」を組織し、滝川市ボランティア連絡協議会に加盟し、市及び団体が主催する福祉行事等への協力を実施。
- 平成25年度まで、地域の高齢者への声かけ訪問、見守り、老人保健施設等でのボランティア活動、高齢者への食事会等、地域に根ざした自主的活動を展開してきたが、高齢化によるメンバーの離脱があり、平成26年度会を解散した。

③ボランティア活動等の支援

【取り組みや事業の概要】

○滝川市社会福祉協議会内にボランティア活動の拠点として、滝川市ボランティアセンターを設置し、ボランティアの人材発掘、育成、情報提供、研修会等の開催、ボランティア団体等の登録や幹旋の利用調整を行っている。また、滝川市ボランティア連絡協議会を組織し、障がい者や高齢者等への支援等で活発に活動している。

【事業の実績】

		H23	H24	H25
登録	個人	143人	152人	163人
	団体	68団体	69団体	76団体
活動実績	件数	197件	123件	117件
	延人数	832人	719人	528人

※活動内容～除雪、ストーブ点検、道路清掃、通院介助、話し相手、施設慰問など

【事業の課題】

○定期的に支援が出来るボランティアが少なく、日常的な支援の要望に応えられない状況である。
○ヘルパーなど資格を有するボランティアの確保

高齢者のニーズに応じた住まいの確保

1. 公営住宅の整備

【取り組みや事業の概要】

○公営住宅については、高齢者世帯が多く居住する老朽化した団地の建替え整備を推進。建替え団地は、全て高齢者対応バリアフリー仕様となっており、今後とも建替え整備を推進することが必要。

【事業の実績】

○泉町団地4棟40戸、東町団地1棟30戸を整備

○高齢者向け住宅等の整備状況

区分		戸数	備考
公営住宅	高齢者向け住宅	84戸	見晴・みずほ・銀川・さかえ各団地に配置 (見晴団地はデイサービスセンター併設)
	高齢化対応住宅	518戸	建替団地のほか障がい者対応住戸や高齢化対応改修住戸等
計		599戸	

※高齢者向け住宅～特定目的住宅（入居要件）として高齢者に限定した住宅

※高齢化対応住宅～住棟共用部分にスロープ、手摺などの対応およびエレベーターが設置されている住宅。また、ユニバーサルデザインやバリアフリー化による住宅。

【事業の課題】

○財政上、年間20戸程度の建替にとどまっている。

2. 民間住宅の整備促進

【取り組みや事業の概要】

- 民間の高齢者向け賃貸住宅の普及を図るとともに、多様な住まいの整備を推進
- 高齢者世帯の増加を踏まえ、身体機能の低下などに対応した高齢者向け住宅の確保と既存住宅におけるバリアフリー化などの設備改善を進め、高齢者にとって質の高い住宅整備を図る。
- 既存住宅における手すり設置等の住宅改修に関する助言、指導を行うとともに、高齢者のニーズの多様化を踏まえ相談体制の整備に努める。

【事業の実績】

- 滝川市住宅改修補助制度により、手すりの設置、段差解消などのバリアフリー改修を推進。実績としては、平成24年度2件、平成25年度0件、平成26年度6月現在1件。
- 市内のサービス付き高齢者向け住宅への転居に対する住み替え支援事業創設。実績としては、平成25年度19件、平成26年度6月現在18件。
- サービス付き高齢者向け住宅の整備状況。5事業所定員206名（うち1事業所20名は、H26年度整備予定）

（民間住宅・施設状況）

サービス種別	事業所名	定員	概要
認知症対応型 共同生活介護 （グループホーム）	グループホームコスモス	18	認知症の高齢者が共同で生活できる住居で、食事、入浴などの介護や支援、機能訓練を受けることができる。
	グループホームカルミア	18	
	グループホームともだちの家	18	
	グループホーム土筆	18	
	ニチケアセンター滝川	18	
	グループホームくらす	9	
	ニチケアセンターせせらぎ公園	9	
介護付 有料老人ホーム	フルールハピネスたきかわ	56	食事、入浴、排泄、洗濯、掃除等の家事、健康管理のいずれかのサービスを提供している施設で、施設内で介護サービスも受けることができる。
	介護付有料老人ホームあおぞら	54	
サービス付き 高齢者向け住宅	カーサシーザーズ	39	高齢者に配慮したナースコールやバリアフリーを施した住宅。食事は自炊も可能。内部の介護サービスの利用も可能。
	カーサシーザーズ2号館	29	
	土筆	37	
	ゆい	81	
養護老人ホーム	養護老人ホーム	50	65歳以上で、環境上及び経済的理由により、居宅において養護を受けることが困難となった方で、入院加療を必要しない方を対象。
軽費老人ホーム	軽費老人ホーム緑寿園	50	60歳以上の自炊ができない程度の身体機能の低下があり、一人暮らしに不安があって家族からの援助を受けることが困難な方が対象。
	ケアハウスメゾンふるーる	50	
介護老人福祉施設	特別養護老人ホーム緑寿園	200	常に介護が必要で、家庭での生活が困難な方が入所する施設で、食事や排泄など日常生活上の介護や身の回りの世話を受けることができる。

介護老人保健施設	老人保健施設ナイスケアすすかけ	100	病状が安定し、病院から退院した方などが在宅生活に復帰できるよう、リハビリテーションを中心とする医療ケアと介護を受けることができる。
介護療養型医療施設	医療法人若葉台病院	114	長期間にわたって日常的に医療ケアを必要とする方や慢性期のリハビリテーション、介護を必要とする方が入院する施設。
高齢者向け住宅	北のユートピア寿泉	36	高齢者に配慮したナースコールやバリアフリー対応。
	さくら館	12	共同住宅で、高齢者以外の方も入居可能。
	グループハウスあたたか館	13	高齢者・障害者向け共同住宅
	西町ふれ愛ホーム	9	高齢者向け住宅

【事業の課題】

- 滝川市住宅改修補助制度は、長寿命化や耐震改修の利用が多いが、バリアフリーに関する改修が少ない。（長寿命化～H24-78件、H25-64件 耐震改修～H24-17件、H25-14件）
- 低所得者向けのサービス付き高齢者向け住宅が整備されていない。
（現状ー約115,000円～約170,000円）

生活支援サービス・福祉施設の充実

1. 独居老人友愛訪問サービス

【取り組みや事業の概要】

- 65歳以上の一人暮らしの方を対象に、乳酸菌飲料を配達し、安否確認を行う。利用料は1か月につき300円。
- 滝川市社会福祉協議会に委託し、ヤクルトへ再委託。

【事業の実績】

	H23	H24	H25
利用世帯数	116世帯	131世帯	130世帯
延実施回数	32,529回	36,075回	36,227回

【事業の課題】

- 今後、利用世帯数増加に伴い、協力事業者の対応が困難になることも予想される。

2. 食の自立支援事業（配食サービス）

【取り組みや事業の概要】

- 65歳以上の高齢者のみの世帯を対象に、月曜日から土曜日までの夕食を配達し、安否確認を行う。
利用料は1食につき450円。
- 滝川市社会福祉協議会に委託し、3事業者に再委託。

【事業の実績】

	H 2 3	H 2 4	H 2 5
利用人数（月平均）	66人	73人	76人
延実施回数	14,302食	15,847食	15,674食

【事業の課題】

- 食生活の改善が必要な高齢者に対して、定期的に居宅を訪問して、安否確認とともに、栄養バランスのとれた食事を提供できる有効な事業である。

3. 福祉除雪ヘルパーサービス**【取り組みや事業の概要】**

- 65歳以上の一人暮らしの方または夫婦世帯（一方が60歳以上）の方を対象に、概ね10cm以上の降雪時に玄関前及び通路部分を1m幅で除雪する。ただし、300m以内に扶養義務者がいる場合は対象外。
- 利用料は介護保険料段階に応じて区分し、1か月につき1,250円、1,750円、2,500円、5,000円の4区分となっている。
- 滝川市社会福祉協議会に委託し、4事業者へ再委託。
- コミュニティ除雪事業を実施し、毎年11月に募集し、5団体へ小型除雪機を地域に無償で貸し出している。

【事業の実績】

- 福祉除雪ヘルパーサービス

	H 2 3	H 2 4	H 2 5
利用世帯数	359世帯	382世帯	363世帯
延実施回数	11,346回	13,359回	10,091回

- コミュニティ除雪事業貸与団体数

	H 2 3	H 2 4	H 2 5
貸与団体数	5団体	5団体	5団体

【事業の課題】

- 要望の多い間口を広げる除雪への対応。

4. 緊急通報システム整備事業**【取り組みや事業の概要】**

- 身体が虚弱な65歳以上の1人暮らしの方又は夫婦世帯（一方が60歳以上）の方を対象に、本体機器の押しボタンや身に付けたペンダントを押すだけで消防署に通報するシステムを貸与する。装置レンタル料は1か月につき399円、通話料、電池代は自己負担、設置費用は介護保険料段階に応じて1,000円、2,000円、実費負担の3区分

【事業の実績】

- システム設置状況

	H 2 3	H 2 4	H 2 5
延貸与者数	2,194人	2,320人	2,251人
月平均貸与者数	182人	193人	187人

○システム通報状況

年度	救急 出勤	火災 出勤	調査 出勤	誤報	電話 処理	機器 異常	停電	テスト	相談	合計
H23	21	0	1	55	0	0	0	0	5	82
H24	26	0	4	27	0	0	0	0	0	57
H25	19	0	3	20	0	0	0	0	0	42

【事業の課題】

○単身高齢者の増加など高齢者世帯の増加が見込まれ、今後においても、住み慣れた地域で安心して過ごせるよう、町内会や民生委員、介護事業所等に積極的なPRが必要。

5. 救急医療情報キット配布事業

【取り組みや事業の概要】

○65歳以上の単身又は75歳以上の高齢者のみ世帯を対象に、かかりつけの病院や持病、服薬内容、緊急連絡先などの情報を記入する用紙、専用のケースを配布し、冷蔵庫に貼りつけ万一の救急時に備える。希望者へ無料配付。

【事業の実績】

	H23	H24	H25
配布世帯数	178世帯	47世帯	46世帯

【事業の課題】

○町内会や民生委員、介護事業所と連携し、新たに対象者となる方への配付、高齢者世帯の設置状況の確認、既に配布している方の情報更新の徹底が必要。

6. 老人福祉電話

【取り組みや事業の概要】

○65歳以上の1人暮らしの方又は夫婦世帯(一方が60歳以上)の方を対象に、緊急時の連絡手段を確保するため、電話加入権を貸与する。基本料金及び通話料金は自己負担。

【事業の実績】

	H23	H24	H25
延利用者数	132人	110人	110人
月平均貸与者数	11人	9人	9人

7. 敬老特別乗車証事業

【取り組みや事業の概要】

○75歳以上の方を対象に、高齢者の外出機会拡大や交通弱者支援等を目的として、中央バス、空知中央バスの市内路線を100円で乗車できるパスを交付。

【事業の実績】

○H23年度、敬老特別乗車証利用実態調査を実施。

75歳以上人口 5,929名 交付者数3,431名(交付率57.9%)、交付者の約5割が利用(利用率50.7%)と推計。(75歳以上の高齢者のうち約3割が利用)

【事業の課題】

- バスに乗りたくても乗ることができない方への外出支援策の検討
- 事業費根拠の明確化

8. 福祉施設の充実**①養護老人ホーム****【取り組みや事業の概要】**

- 昭和50年5月開設の「緑寿園」があり、定員50名（二人部屋24室・一人部屋2室）で運営。
- 老人福祉法に基づく施設で、原則65歳以上で身の回りのことはできるが、環境上および経済上の理由により居宅生活が困難な方を市町村の措置により入所させている。食事付き。

【事業の実績】

- 平成26年4月、滝川市社会福祉事業団へ事業移管・施設譲渡
- 養護老人ホーム入所者数

	H 23	H 24	H 25
延利用者数	387人	452人	428人
月平均利用者数	32人	37人	35人

【事業の課題】

- 施設の老朽化への対応

②軽費老人ホーム**【取り組みや事業の概要】**

- 昭和53年4月開設の「緑寿園」があり、定員50名（一人部屋個室38室、夫婦部屋2間6室）で運営。
- 老人福祉法に基づく施設で、60歳以上で身の回りのことはできるが、身体機能の低下等により独立しての生活に不安のある方が入所。種別はA型（食事付き）

【事業の実績】

- 現状の施設形態では、ケアハウス化は困難であり、市設置のままで施設継続し、滝川市社会福祉事業団への指定管理を継続
- 軽費老人ホーム利用者数

	H 23	H 24	H 25
延利用者数	572人	570人	588人
月平均利用者数	47人	47人	47人

【事業の課題】

- 施設の老朽化への対応

③ケアハウス**【取り組みや事業の概要】**

- 平成10年10月に社会福祉法人秋桜会が開設した「メゾンふるーる」1箇所があり、定員は50名。自炊できない程度に身体機能が低下しているが、日常生活で身の回りのことができる方を対象に、食事を提供し、自立した生活を送れるよう工夫されている。

【事業の実績】

	H 2 3	H 2 4	H 2 5
延利用者数	596人	599人	597人
月平均利用者数	49人	49人	49人

【事業の課題】

- 軽費老人ホーム緑寿園とともに、待機者あり
- 要介護者が増加し、約20名が要介護度有り（介護度2が最大）

家族介護者への支援の充実等**1. 家族介護者の集い****【取り組みや事業の概要】**

- 介護者の心身のリフレッシュを図り、介護負担の軽減に繋がるよう、年間4回程度、温泉施設等において介護者を対象に『家族介護者の集い』を開催。

【事業の実績】

	H 2 3	H 2 4	H 2 5
開催回数	4回	4回	3回
延参加者数	39人	62人	74人

【事業の課題】

- 講座や温泉施設でのリフレッシュなど企画し、ケアマネージャーからも参加を呼びかけているが、参加者が固定し参加希望者が少ない状況。施設見学については希望者が多く好評であったことから、今後も内容を工夫し参加者の拡大に努める。
- 『認知症の人と共に歩む家族の会（あけぼの会）』の活動日に合わせて開催することにより、新たなあけぼの会への加入や、介護者同士の日頃から交流に結び付いており、有効である。
- ケアマネ会議などを通じ介護者の求めていることを把握するとともに、集い以外の取組についても検討する必要がある。

2. 家族介護用品支給事業**【取り組みや事業の概要】**

- 市内に住所があり、現に居住する要介護3以上の認定を受けた排尿、排便全介助の要介護者を在宅で介護している家族等に対し、1枚1,000円相当額のおむつ用品の購入券を年間60枚交付し、経済的負担の軽減を図り在宅での介護を支援する。

【事業の実績】

	H24	H25
受給者数	30人	35人
利用枚数	1,057枚	1,229枚
助成額	1,057,000円	1,229,000円

※対象者を、平成25年度より当初の要介護4以上から要介護3以上に拡大し、対象用品、取扱店を拡大した。

【事業の課題】

○高齢者増に合わせて対象者の増加も見込まれ、予算枠内での対応の検討が必要。

3. リフト付きタクシー等利用料助成事業

【取り組みや事業の概要】

○市内に住所があり、要介護3以上の認定を受けた寝たきりまたは歩行困難な方でストレッチャーや車いすを必要とする方に対し、在宅で寝たきり又は歩行困難な方が医療機関へ通院する際の移動のために利用する、リフト付きタクシー等の利用料に支払いできる助成券を年間30,000円相当分交付する。

【事業の実績】

	H24	H25
受給者数	23人	41人
利用枚数	114枚	866枚
助成額	67,060円	211,270円

※対象者を、平成25年度より当初の要介護4以上から要介護3以上に拡大し、基本料金相当額ではなく、支給限度内でタクシー乗車料金として利用できることとした。

【事業の課題】

○居住地により乗車料金が異なるため、定額制の見直しについて要望がある。

高齢者の生きがいつくり

1. 老人クラブ活動の拡充

【取り組みや事業の概要】

○組織数は減少しているが、単位老人クラブが地域美化活動や奉仕活動、ボランティア活動、趣味活動、レクリエーション等多様な取り組みを行い、単位クラブが集まり老人クラブ連合会を結成し、市内全域を対象とした催しを実施している。

○老人クラブの活動は、生きがいつくりや健康増進、外出機会の創出等介護予防の観点からも重要なものとして、地域の子どもたちとの文化伝承活動や社会奉仕、花いっぱい活動、友愛訪問活動、ボランティア活動に積極的に参加できるような体制づくりを支援している。

【事業の実績】

	H23	H24	H25
単位クラブ数	31クラブ	30クラブ	29クラブ
会員数	1,363人	1,285人	1,199人

【事業の課題】

○高齢者人口増に老人クラブ会員数が比例していないのが現状であり、各老人クラブの高齢化、入会者減少で会の存続が困難な会が発生している。

○要因としては「老人クラブという名称への拒否感」や「個を重んじる風潮や趣味・価値感の多様化」などが挙げられる。

2. 中央老人福祉センターの利用促進

【取り組みや事業の概要】

- 昭和57年4月開設以来、高齢者の趣味と憩いの場として、健康教育や健康相談等各種催し物の会場として利用され、滝川市老人クラブ連合会が指定管理者として運営・管理を行っている。
- センターに看護師を配置し、毎週火曜日の入浴日には利用者に対する血圧測定や健康指導を行っているほか、月1回市内老人クラブすべてを訪問し、健康相談に実施。

【事業の実績】

○中央老人福祉センター利用状況

	H23	H24	H25
延利用者数	17,850人	14,818人	13,971人

○中央老人福祉センター目的別利用内訳

	H23	H24	H25
趣味・娯楽	10,856人	9,484人	8,631人
入浴	1,948人	1,953人	1,873人
機能回復訓練	4,630人	2,939人	3,044人
市老連各種会議	416人	442人	423人
合計	17,850人	14,818人	13,971人

【事業の課題】

- センターの老朽化により随時修繕費を要している。
- ストックマネジメント検討施設、存廃議論の対象施設になっている。
- 利用者（老人クラブ）が減少し、費用対効果も薄れてきている。

3. 敬老事業の実施

【取り組みや事業の概要】

- 高齢化の進展による対象者数の増加や予算縮減により、平成24年度より88歳（米寿）と100歳の高齢者に対し、祝い品と祝い状を贈呈。9月の老人週間に合わせて、市職員が地域の民生委員・児童委員とともに対象世帯を訪問し、祝い品と祝い状を直接手渡ししている。
- 敬老事業実行委員会が取組内容を検討し実施している。

【事業の実績】

	H23	H24	H25
対象者数(75歳)	523人	—	—
対象者数(88歳)	188人	187人	234人
対象者数(100歳)	10人	15人	14人

【事業の課題】

- 実行委員会において、高齢者への感謝は家庭の役目であり、家庭でできない場合は地域でその役目を果たすべきといった意見もあり、今後も敬老事業のあり方の検討が必要。

高齢者生涯学習の充実

1. 福寿大学（高齢者の生涯学習）の充実

【取り組みや事業の概要】

- 昭和50年4月に事業を開始し、60歳以上の方を対象に「自己の豊かな経験や能力を活かし、健康の維持増進、趣味や教養の向上を図りながら、生きがいのある充実した生活を送ることを目指す」ことを目的として開講している。
- 明神分校、西分校、北分校、江部乙分校の4校に分け、年間10回程度の講座を開設し、福祉とボランティア、健康と安全、知識と教養、総合の4分野について学習・体験するほか、学習要望や社会環境の変化など必要課題について特別講座、研修旅行も組み入れ実施している。

【事業の実績】

- 平成24年度～在籍者数 152人（男26人・女126人） 講座出席率 65.9%
- 平成25年度～在籍者数 135人（男26人・女109人） 講座出席率 65.2%
- 平成26年度～在籍者数 145人（男23人・女122人）

【事業の課題】

- ・本科、研究科とも同一カリキュラムであることから、仕組みの再考が必要
- ・現在の60歳代前半の方の中には、高学歴者が多く、学習内容の高度化など見直しが必要。

高齢者の積極的な社会参加の促進

1. 高齢者活力の推進

【取り組みや事業の概要】

- 高齢者が培ってきた知識、技能、経験を生かせる機会を確保し、高齢者がその能力を生かして地域社会の需要に応え、働くことを通じて健康を維持し、生きがいを求める場として、滝川市シルバー人材センターの活動を支援する。

【事業の実績】

	H24	H25
登録会員数	342人	312人
受注件数	5,187件	5,168件

※シルバー人材センター運営費補助金活用

【事業の課題】

- 団塊世代が退職を迎え、入会の促進に努めたが、入会者は少なく、会員数は年々減少傾向にある。